

機能性トマト最前線

栄養価をプラス、マイナス

健康的な生活を送るのに「野菜」は必要不可欠。しかし、日本人の野菜を食べる量は減少し、生活習慣病は年々増加している。こうしたなか注目されているのが、少量でも従来の野菜より高い栄養を摂取できたり、病気のために食事制限をしている人でも食べることができたりする「機能性野菜」。そのなかでもトマトは数多く開発されている代表的な品目といえる。

「トマト健康ブーム」の火 維持にも有効と、今年の「東京マラソン2013」に駆け役ともいえるカゴメ 賛し「抗酸化作用を期待では、2007年にリコピン含量が1.5倍とつたたK A G O M E 高リコピントマトを発売した。美容意識の高い女性から支持され、34個入りで価格が400円前後とやや高めであるにも関わらず売れ行きは好調だ。

また、同社では美容だけでなくスポーツ時や健康 5倍と伸ばしている。

さらに機能性トマトの開 発は進んでいる。

種苗会社のバイオテアエ 「フライヤータイガー」は、コサイエンスが先月発表し 通常のピンク系大玉トマト



貸し農園で行われた新品種発表会

た、糖度も9〜11度と高く、高リコピンで高糖度な品種は世界的にも珍しいとして期待されている。

同社の新製品発表会に招かれた青果関係者は「高齢化が進むなかで、特定保健用食品「トクホ」を取得した製品が注目されている。消費者は、自分の食生活にどんな栄養素が必要なのかを考え、食材を選ぶようになってきており、野菜にも機能性が求められはじめている。現在、青果物は「トクホ」を取得することは出来ないが、近い将来「トクホ」に通ずるような表示が青果物でも可能になる」と、今後の機能性野菜の期待を語った。

透析患者や、腎臓病患者の多くは食事制限のなかで、カリウム摂取を制限されていることが多い。当然、カリウムを多く含む生の青果物を食べる事ができないのだが、心配なく食べることが出来る注目浴びているのが、通常のレタスより80%カリウムの含有量を減らした低カリウムレタス。世界で初めて量産化に成功した同社が、次に開発実験を行っているのがトマトだ。

先月行われた、「三井食品フードショー」で、低カリウムトマトの試作品が展示さ

れた。すでに生産技術が確立し現在外部機関での分析が始まっているという。

「低カリウムレタス同様、百貨店や通販で販売しているが、病院食関係者からの問い合わせも多く、多くの方が注目している」と、同社東京支店長鈴木広幸氏は、期待を語る。

また、レタスとトマトの他に、量産化の実験を終えて来シーズンから販売を開始する予定の低カリウムメロン（注）の展示も行われた。低カリウムメロンは、通常のメロンよりカリウム含有量を50%まで下げることが成功している。

「マウロの地中海トマト」シリーズの新品種のトマト「フライヤータイガー」は、通常のピンク系大玉トマトに比べてリコピンが約6倍（大阪府立大学調べ）含まれており、「リコピン・モンスターのキヤップ」で販売を開始する。外観はその名のとおり、赤茶色と緑色がランダムに繰り返されるストライプ柄と特徴的。また、栄養価をマイナスにした機



展示会の低カリウムトマト